基本情報

試験時間：60 分　満点：100 点　解答方法：番号選択式

出題範囲

「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」

難易度

基礎～標準レベル

出題内容

年度	大問	小問	出題内容
2026	1	6 問	発音・アクセント
	2	10 問	適語句・適文選択
	3	5 問	語句整序
	4	10 問	長文総合「オーバーツーリズムの現状と持続可能な観光への課題」
	5	6 問	長文総合「薬物乱用防止に向けた教育の重要性と各国の法的アプローチ」
	6	3 問	長文内の不要文選択「スポーツ参加で得られる恩恵と安全性の両立」

傾向

● 発音・アクセント問題、適語句・適文選択問題、語句整序問題、長文問題３題の計６題で構成されています。以下では、大問ごとに傾向を記します。

● 大問１　発音・アクセント

下線部の発音がほかの３つと異なるものを選ぶ問題と、第１アクセントの位置がほかの３つと異なるものを選ぶ問題が３問ずつ出題されました。発音問題では３問ともにおいて、下線部が同じつづりだが発音が異なる語が出題されました。アクセント問題では success と process のような、つづりの似た単語のアクセントの位置を区別できるかも問われました。

● 大問２　適語句・適文選択

会話文の中で文法、語法、会話表現などの知識を問う問題が出題されました。文法、語法を問う問題は仮定法、How often ～?「どのくらいの頻度で～。」、〈助動詞＋have＋過去分詞〉、avoid ～ing「～するのを避ける」などが扱われました。文法知識で排除できる選択肢があるものの、全体として会話の文脈を正確に把握できているかが問われました。

● 大問３　語句整序

会話文中の重要な文法、語法が入った文の一部が空欄になっており、語群にある７つの語句を並べ替えて文を完成させる問題が出題されました。日本語が与えられていないため、会話文読解の要素も含んでいます。文法､語法の項目としては allow＋人＋to ～「人が～するのを可能にする」や know better than to ～「～するほど愚かではない」などが扱われました。また、並べ替える語句が７つと多く、文法、語法を正確に覚えていないと英文を組み立てるのに時間がかかる問題となっていました。

● 大問４　長文総合

約 500 語の長文が出題されました。オーバーツーリズムという、ニュースでも見かけるようななじみのある話題が扱われましたが、単語は難しく読み応えのある文章でした。小問 10 問のうち５問は単語の意味を問う問題で、難しめの単語の意味を文脈から推測して解く必要がありました。ほかには下線部の内容把握問題、代名詞の指す内容を選択する問題、本文と内容が一致する文を選択する問題が出題されました。内容一致文選択問題では選択肢がすべて２行にわたっており、それぞれの内容を正確に理解してから長文の内容と照らし合わせる必要がありました。

● 大問５　長文総合

約 830 語の長文が出題されました。薬物の利用をテーマとする長文で、序盤は薬物の歴史、中盤は薬物のリスク、終盤は薬物の規制と教育の必要性について説明されました。中盤には薬物の医療目的での合法利用についても述べられており、展開の変化を繊細に読み取る必要がありました。単語数が多く、また小問の多くが内容把握問題のため、大問４の長文よりも難度が高くなっていました。

● 大問６　長文内の不要文選択

「スポーツ参加で得られる恩恵と安全性の両立」をテーマとする約 360 語の長文が３つの段落に分けられ、それぞれの段落中にある不要な一文を選ぶ問題でした。選択肢となる一文が長く、その文の意味を正しく理解することと、前後の文と矛盾した点がないかを判断することの２つの力が求められました。

対策

● 大問１　発音・アクセント

発音・アクセント問題では、日本語とは発音・アクセントが異なるものが出題されることが多いので注意が必要です。今回扱われた loose「ルース」や news「ニューズ」がその例です。なじみのある単語であっても辞書で発音記号を調べるクセをつけましょう。ou などの二重母音は発音が問われやすいもののひとつです。正しい発音・アクセントを知ることは目先の入試対策にとどまらず、英語を話す際にも必要です。コミュニケーションツールとしての英語を学習している認識を持って、「つづり、音、意味」の３つをセットで覚えるようにしましょう。

● 大問２　適語句・適文選択

文法、語法の知識が豊富にあれば時間をかけずに解答できます。この大問をすばやく解答できるかどうかがテスト全体の時間配分に大きな影響を及ぼすでしょう。一部には、誤答の選択肢を空欄に当てはめると文法的に成立せず、文法の形を暗記していれば正解を選べる易しい問題もあります。どの選択肢を空欄に当てはめても文法的に成立する場合は、会話の文脈をヒントにしましょう。文脈から空欄に入りそうな英語を予想して、それと同じような内容を選択肢から見つけるという流れで解答するのが理想的です。

● 大問３　語句整序

並べ替える語句が７つと多いので、文法や語法の知識のみで組み立てようとすると時間がかかり、ミスの確率も高まります。落ちついて会話文を読み、空欄に入りそうな内容について推測することが重要です。そのうえで持っている文法や語法の知識を駆使し、文法規則上結びつく語句を見つけて、小さなかたまりを作っていきましょう。会話文を読んでから並べ替えるのは時間がかかりそうに思えますが、実際はこちらのほうが安定してすばやく解答できます。

● 大問４　長文総合

長文内の単語は難しめではあるものの、内容はなじみのあるもので読解としては標準的な難易度でした。単語の意味を答える問題は、意味を知らなくても文脈から推測して正答できるようになっています。自分の知らない単語が問われるのを前提に、普段から文脈を把握して単語の意味を推測してから、辞書で意味を調べるクセをつけましょう。誤答選択肢には紛らわしいものも含まれています。例えば(オ)の region は「地域」が正解ですが、選択肢に religion「宗教」が含まれています。単語の暗記が曖昧だとこうしたつづりの似た語に惑わされてしまうので注意しましょう。また、最後に内容一致文選択問題がありますが、選択肢は本文に登場する順番に並んでいます。選択肢と本文を並行して読み進めると時間を効率よく使うことができます。

● 大問５　長文総合

英文量が多く３ページにわたっているので気後れしてしまうかもしれませんが、段落ごとに区切って落ちついて読み進めましょう。長文にまんべんなく下線部や空欄が置かれ、それらに関する解答の根拠の多くは下線部や空欄の前後に隠されています。それぞれの問題を解くことに集中しながらも、長文全体の流れは見失わないようにしましょう。また、長文の内容が読み取りにくいときは、注釈や日本語の選択肢が助けになる場合があるので活用しましょう。

● 大問６　長文内の不要文選択

長文内の不要文選択問題では、段落ごとに「何について語る段落か」を明確にして読み進めることが重要です。不要文として紛れ込んでいる選択肢は、一見すると関連があるキーワードを含んでいながら、実際は論点がずれていることが多いので、段落の主題を常に意識できていないと誤った選択肢を選んでしまうことがあります。不要な一文は、論理的に矛盾した位置に挿入されており、その一文を読み飛ばしたほうが文章の意味が通るという特徴があります。書き手の主張の「本筋」から外れた「寄り道」となる一文を見つけ出す感覚で読み進めましょう。